

1 避難そして避難所開設まで

3月11日金曜日、午後2時46分。地震発生。第一次避難として、児童は机の下に身を隠した。第二次避難。校内放送で校庭に避難の指示を出し、校庭で余震がおさまるのを待つ。雪が降り始める。保護者が児童を引き取りにき始める。引渡しを許可する。校内放送はこれを最後に、停電のため使用ができなくなる。

雪と寒さが気になり、体育館へ移動し、引渡しを行うこととする。

体育館には、すでに、地域住民が避難を始め、集まり始めていた。

そのうち、「陸前高田で10メートルの津波、・・・・・・・・、高台へ避難してください」と言うラジオの情報を聞いた職員の話から、尋常ではない津波が発生していることを知り、学校長は校舎3、4階への第三次避難を決断した。低学年（掃除で残っていた児童や放課後児童クラブにいた児童）から順に、通路を歩いて避難を開始した。避難中、体育館わきの畑からゆっくりと津波が押し寄せてきた。児童が終えてから、近隣の避難者に避難してもらい、最後に担任以外の職員が腰まで水につかりながら避難した。駐車場に避難していたデイサービスのワゴン車から人を強制的に避難させる出来事もあった。

避難後、児童には教職員がつき教室で待機し、それ以外の教室等は一般の方々が居場所を確保した。教室のカーテン類やカーペット類もすべて暖をとるための資材として使われた。廊下のフックに掛けてあった子どもたちの運動着（ジャージ等）も使用された。寒い夜を過ごす。1階教室は、1.2m～1.6mの侵水により使用不能となっていた。

近隣の家の2階や、屋根に避難している人を救助するため、地域の避難者と教職員と一緒に救助活動を続けた。救助活動は夜を徹して行われた。

避難していた妊婦さんが、3日ほど早く出産する出来事もあった。

一方、屋上や校舎外の非常階段などで、喫煙や飲酒の形跡が確認されることとなる。

震災の当日、避難所の開設でもあった。

屋上や校舎外の非常階段などで確認された喫煙や飲酒の形跡。そのような状況を学校長は特に危惧した。そして、もう一人、避難所の自治運営を早急に確立させたいと考える男がいた。以前、釜小学区の地区会長であった、電設会社社長であった。喫煙・飲酒の実態は、一刻も早い自治運営を確立したいと言う思いを加速させた。

その夜、学校長と会社社長の会談が行われた。

3月12日土曜日。児童引渡しを随時実施する。児童が親元に戻ることもなるがこのまま避難所で過ごすこととなった家庭も多い。職員が屋上に『SOS』の文字を書くが、この手応えを感じる事が無いまま日々が流れていく。学校長と会社社長の2回目の話し合いにより、自治組織のイメージが具体的な組織図となって示されることとなった（写真）。あとは、各部屋の代表に自治組織・

自治運営の事を伝える場を設けるまでとなった。



2 教職員を中心として

避難所を開設となったが、被災後しばらくの間、外部との連絡がとれない状態が続くようになる。停電のため電話、電子メール等の通信手段は不能となっていた。豆電球と乾電池、ローソク等、校内にある、『使える物』を探し出し、各部屋に配給し使い方を説明して歩くのは、震災の当日から学校の教職員の仕事であった。アイデアを出し、安全に出来るだけ長い時間使用できる方法が、教職員の間から多数出された。即、話し合い、最良と思われる方策を取る。

市教委、市役所との連絡も取れないまま過ぎた。2日目に、職員2名が直接市教委へ足を運ぶが、途中から浸水のため進むことができず、やむなく引き返すこととなった。避難所に来る自衛隊、救急関係者等に市への連絡を託すこと以外は、考えられる方策は無かった。

賛同する人もいれば、賛同しない者もいよう。ただ、これから先どれくらいまで続くのか見当がつかない釜小避難所での生活を、できるだけ円滑に運営していくためには秩序・規律が必要であることは事実であった。会社社長は、各部屋をまわり、終日、避難者へ説明・説得を続け、理解を求めていった。このことにより、各部屋では、リーダー選出のため話し合いが行われたようであった。避難後初めての話し合いとなったと思われる。

夜、臨時のリーダー会議を校長室で開いた。今後の避難所の規律を守るため、部屋のリーダー等役割分担することを話し合った。昨夜、形跡があった喫煙や飲酒の事実を伝えた。リーダーたちの間で意見が交わされた。初めての者同士であっても、この場で発言の遠慮はない。容認を希望する意見が出る一方、わがままは慎まなければならない、という雰囲気リーダー達から強く感じられ

た。最終的に、喫煙や飲酒の校地内禁止を確認する。そして、次の日から、朝9時と午後3時の2回、リーダー会議を実施していくこととした。

震災直後、被災した店舗から色々な物資を持ってきていた避難者もいた。その中には酒類やたばこ類もあった。リーダー会議での確認を基に酒類やたばこ類は学校預かり（学校保管）となり、校長室に提出された。その後、喫煙については校地内で何度か確認されたが、リーダー会議を通して各部屋に呼びかけ、校地外への喫煙所の設置へと至っていく。酒類は約2ヵ月後、処分へといたる。

3月13日日曜日。

午前9時、リーダー会議。この日より定例のリーダー会議を実施することとした。

午前9時50分 職員の家族の安否確認

午前10時 海上自衛隊員2名、物資のことで工業港から徒歩で来校。100食用意できるのでリヤカーを貸してほしいとのこと。その後、物資が届くようになるが、本校の職員が動かざるを得ない状況が続く。

避難所への安否確認のため訪れる人が続いた。2階職員室前に避難所の受付を設置し、教職員が交代で来校者の対応に当たった。家族の安否確認のため、幼い子どもがいる教職員が2～3人が交代で自宅に戻っていった。少人数ずつ交代ではあったが、職員が家族の安否確認へ行くことが出来るようになったことに一時の安堵を覚えた。それぞれ、自宅までの道のりが通常ではないことは十分分かっていった。

3月14日月曜日。

午前9時、リーダー会議。学校職員からの、この日の連絡である。（例示）

- 9時過ぎに支援物資（餅）が届く予定なので、校庭での手渡しに協力願いたい。各部屋より運搬係を出してもらいたい。
- 今後の健康管理・医療行為の必要が発生した時のために、看護師は9:30までに校長室へ。
- 保健室は土足厳禁にします。
- 毛布が172枚ありますが、現在、各部屋に何枚あるか報告してください。
- 2年4組教室は、体調のすぐれない人が休む「安静室」とします。
- 食材の配給について [食料係から]: 今日の配給は・・・・・・・・・・。
- 校庭の通路開拓について [教職員の担当から]: 準備物は長靴、スコップ、・・・・・・・・。
- 水の配給: 500m lで2人分 (20→8人分)。
- プール水の利用は不可です。

午後3時30分、リーダー会議。各部屋

- 各部屋の名簿の作成そして毛布を使用していない方の人数の確認ご苦労様でした。毛布の配布、餅（支援物資）の今日の分の配布は無事終了しました。
- （午前のリーダー会議の案件）2年4組を「安静室」として利用していきます。この部屋は、2年4組のリーダーさんのご家族が、そのままリーダーとしてリーダー会議への出席をしていただくことになっています。
- トイレの清掃を3階ではこのような当番で行っているそうです。この計画によってトイレット

ペーパーとゴミ袋をお渡ししています。

- ◎2階トイレ掃除は、少人数教室（3階にある教室）、なかよしの教室（2階赤ちゃん部屋）にも当番をまわしてください。男性がおります。（←該当教室のリーダーより）
- 食材の配布チケットについて。食材を受け取る際は、このチケットと交換としますので、受け取る際には必ずお持ちください。（炊き出しのご飯 1人1／3食ずつ）
- 各部屋の看護師さんの確認。
- このリーダー会議終了後、夕食までのお菓子を配給します。その際、ペットボトルの空を持ってきてください。

3月15日火曜日

午前9時 リーダー会議

- 各部屋の名簿は変更（移動・異動）がある場合のみ、受付に報告ください。
- 食料の仕分け、配給の係りは現在のメンバーでお願いします。
- 水の配給：1日1回ポリタンクで。但し、ポリタンクから部屋の一人一人のペットボトルに分けて、ポリタンクを空にして家庭科室（食材配給所）の前に戻してください。多少多めに配給しますので部屋の人数に配給後は、部屋での手洗い等に使用ください。給水車来所の時刻が不定期なので、給水可能なときに給水しますのでポリタンクは可能な限り早く家庭科室の前に戻してください。
- 本日より、食材のメニューの選定にリーダー3名に加わっていただき、選択していきたいのですが、宜しくお願いします。

この日から救急患者の受け入れ可能な病院の情報が入るようになる。しかし、搬送の手立てがないので、支援物資の配送車、消防など、来校車に連絡を託した。

避難者への『連絡』は、リーダー会議で済ませられるが、一つの連絡事案に付いての準備・取りまとめは教職員である。震災当日から物資の利用や配給のための発案・連絡・取りまとめ等を行っている。市の避難所担当の職員が中心となり、避難所が運営され、教職員が本来の職務に付くことができる時がくることを心底願っていたのは、学校長であった。教職員で、避難所の運営全てを昼夜担うには、余りに課題が山積していたのである。

3 避難者と共に

午後3時30分 リーダー会議の存在に大いに助けられた一ケース。

この頃から、インフルエンザの流行が懸念されるようになった。各部屋でマスクを着用していない人の数を調べ、保健室の担当に報告するよう各リーダーへ指示された。後にマスクの配給がなされた。

この日の昼間、ある部屋で、カップラーメンを食べていたことが報告されていた。食べるものが十分になく、食べたいものも食べることが出来ない子どもを見て、かわいそうに思い、避難所の外でカセットコンロを使いお湯を沸かし、カップラーメンを作ったとのことであった。避難所内で火気を使用したわけではなかった。但し、カップラーメンは配給された食材ではなかった。そして、その部屋の子どもたちみんなに提供されたわけではなかった。リーダー会議の話し合いの結果、「もし（カセットコンロを）使用するなら、ここの避難所からは退所していただきます。」との議決となった。そして、「炊き出し用のコンロが不足しているので、（カセットコンロを）提供していただ

けるなら本部へ持ってきていただきたい」と加えられた。食材の均等の配給、火事の嚴重注意の観点からである。非常食（ご飯）の炊き出しのため、お湯を沸かすためのカセットコンロが不足しており、避難者全員に僅かずつのご飯を配給することも不可能だったのである。リーダー会議終了後、リーダーは部屋に戻り、会議の内容を伝えた。これ以後、事案は発生しなかった。リーダー会議の重要性と、話し合いの重みを感じた一件であった。協力を聞き入れてくれたご家族に感謝するとともに支援物資の配給の拡大を切に願わざるを得ないケースでもあった。

3月16日水曜日 避難者と教職員がともに一つ一つの作業をこなしていく始まりとも言える日。

児童の安否確認のため多数の教職員が不在になる旨をリーダー会議で伝えた。校舎1階の内外で、流されたものの移動・片付け等の避難所の仕事は、避難者の人達で行っていくことを会議で確認した。作業の指示は学校の職員である。多くの男性避難者が参加をし、作業に力を尽くした。

3月17日木曜日

校庭中央の通路の確保作業。昨日と同様、多くの男性避難者が参加をし、作業に従事した。

3月18日金曜日

校舎北側・プール周辺～通路～駐車場までの泥除け。午前10時より。今日もたくさんの避難者が参加して作業を行うことが出来た。作業が進むことに感謝した。

一週間が過ぎていく頃から、作業に参加する男手が、若干であるが少なくなってきたことが気にかかった。作業の時間帯によっても数の変動があった。自宅の修復・復旧作業に戻る避難者が次第に数に現れてきたのであった。

一方、女性の避難者の中からは、衣類や生活・健康用品類の仕分けや、食料関係の仕事を受け持つ人も出てきた。教職員が先に立って活動する部分と、避難者自身が中心となって受け持つ部分とが、内容によって分かれてき始めたことが感じられて来た頃であった。

このころから、被災した自宅の2階に住むことができるようになったり、一時的に住居を都合したりして避難所を去る避難者も出てきた。リーダーとして活躍していた避難者の中にも、退所していく者が出てきていた。部屋によってはリーダーが不在のままの所もあり、連絡等も徹底されないケースが発生したため、次のリーダーを必ず選出し、リーダーの不在を避けるようにリーダー会議で確認をした。たとえ、部屋のメンバーが交代であれ、リーダー会議の出席をはじめ、会議の内容の伝達をとおし、避難所の運営を円滑にしていく一役を担うようにしていった。

各部屋の避難者の人数は、多い所、少なくなってきた所と、偏りが表れてきた。部屋割の再編が視野に入って来た頃であった。

4 自主運営に向けて ― 避難所の再編をとおして ―

県外からの定期的なボランティアが在所していた。当初は、教職員や避難者とともに日々の作業を行ったり、支援のボランティアとともに復旧に向けての仕事に携わっていたりした。

リーダー会議の場所も、3月末頃から、校長室から避難者の少ない一教室を提供していただき、そこで行うようになっていた。

ある日のリーダー会議で避難している人たちの部屋の再編について、話を出し、約1週間後に編制の案をリーダー会議において伝えた。結果は避難者の反対により実行は不可能であった。

避難者の移動は、例え避難所の中であっても、細心の配慮が必要であることを後に身を持って知ることとなる。『学校の授業再開に向けての教室の確保』は、理由にはならないのである。当分の間は、避難所開設の時のままの部屋割で行くこととなる。

他の避難所でも同様な課題があるようであった。

4月に入り、県外からのボランティアを中心として、避難所の再編が計画された。避難者一人一人や、各家族の状況、希望等を考慮して班編成を行った。校舎の2教室が継続して避難所となるが、その他の避難者は、全員体育館とその脇の多目的室に移動するという内容である。避難者への詳細な説明は県外のボランティアが担った。

期日は4月14日を予定とした。4月14日のリーダー会議において市の避難所担当者より、移動の説明がなされた。3日間が移動の期間であった。

4月15日金曜日以降、リーダー会議の場所を体育館に移動することとなった。進行・会議の中心はすでに市の避難所の担当職員であった。しかし、1日ごとに担当が替わるので、避難者からは、「せめて一週間くらいは同じ人が担当でいて欲しい」と言う願いが公に出されてきた。このことは、私たちも同様であった。今、最も必要なのは避難者が信頼できる避難所の担当者の存在なのであった。幸い、その後、市の避難所の担当者も、ほぼ一週間スパンでの交代となり、避難者が市の職員に同じことを何回も繰り返し伝えなければならない状況は次第に解消へと向かうことになった。

リーダー会議は、県外のボランティアが加わり、市の担当職員が中心となって進める形が定着してきていた。市の担当職員は、ほぼ、ローテーションを組んでの一週間の交代なので、まったく新しい職員が担当として来る、と言うことは無かった。

避難所の再編以降、教職員は学校再開の仕事に本格的に取り掛かった。避難者と教職員との接点もこれまでより少なくなってきた。ただ、避難所と学校が併設にある状況では、学校の教育活動を進めていく上で、お互いの理解がますます大事になっていくことを感じていた。

震災発生から一カ月余り、リーダー会議を避難所運営の中心として継続して来た。運営の主体は教職員から、避難所の担当職員と避難者へと移行していった。避難所の再編以後、リーダー会議へは、学校長又は教頭が交代で出席をするようにした。会議での内容は、打合せ等で教職員に伝え、避難所・避難者の様子等の理解を図った。校庭の全面使用、体育館の学習使用に至るにはまだ月日が必要な状況であったが、避難所の再編は明らかに避難者と学校の双方の理解の上に成り立ったことであると学校長は感じていた。

毎日、定期で行われていたリーダー会議は、5月後半には週に2回となった。7月からは週1回となり、その後、しばらくして後、必要に応じて会議（話し合い）を持つ、と言うように変わっていった。

10月5日水曜日。午後1時をもって、避難者0名となる。最後は3世帯8人。

避難所の運営を支えてきたリーダー会議は、終了した。